

「上諏訪温泉朝市」実施事業

取組に至る背景・事業の目的

- 諏訪湖周辺では、モーニングタイム（朝起きてからチェックアウトまで）の楽しみが少なく、結果として他の観光地への移動を早め、滞在時間の短縮につながる恐れがあった。
- 一方、団塊の世代や女性を中心に、健康への関心や地産地消による安心・安全な農産物等への需要が高まっており、新たな地域資源としての活用が期待されている。
- これらの背景をベースに平成 24 年度に諏訪地方事務所主導による「上諏訪温泉朝市」を開催したところ、限定的な宣伝にもかかわらず、多くの観光客、市民に楽しんでいただけた。
- 平成 25 年度から、「地域に愛される朝市」を目指し、民間と行政との連携により組織体制を充実させ、先を見据え出店者主体の運営体制への移行準備と知名度の向上を目指して事業を行った。

事業内容

(1) 農産物の対面販売

上諏訪温泉・諏訪湖エリアにおける歴史・文化の発信拠点として有名な施設である片倉館において、諏訪広域で収穫された新鮮な農産物、名産品の対面販売を行う。

農産物は安全を証するものとして、栽培履歴の提出を依頼し、来場者が閲覧できるよう常備した。

(2) 併催イベントの実施

オープニングイベントの他、しあわせ信州観光キャンペーンのPRイベントを共催し、観光客へ信州のPRを行った。



【 上諏訪温泉朝市の光景 】

事業効果

- 7月20日～10月19日の毎週日曜日及び8月12、13日の合計16回実施。
来場者は平均358名（前年384名）と前年を下回ったものの常連の来場者も目立ち、地元住民への定着が進んだと見られる。
- 出店者数は平均21店（前年20.4店）と夏場の天候不順にも係わらず前年を上回り、出店者にとっても魅力のある朝市であると思われる。高いクオリティを確保するために努力・協力をしていただき、顧客満足度の高い朝市を維持できている。
- 終了時期を延ばしたため、りんご等果実類が店頭に並び、県外からの観光客の購買に繋がった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 事業継続のために、平成 26 年は出店者を主体として構成する企画部会を設置し、出店ルールの確立やテント・のぼり旗設置などの共同作業に加わって頂いた。
- アンケート、マーケティングを諏訪東京理科大学に協力を依頼し実施した。より知名度を上げるためのマーケティング活動及び広報活動の参考として大変有意義であった。
- 期間の前後半で開始時間変更や、半期の出店料を定めて出店料の増収を図ったが、仕組やシステムが煩雑となり、今後自立運営していく上でさらなる改善を図る。
- 県や市の協力を得られたことにより、知名度の高いブランド野菜の販売や観光キャンペーンPRイベントの実施など、大きなアドバンテージを得られた。

【選定のポイント】

宿泊施設、学校、各種団体と連携して行うことで地域に愛される朝市となり、一層の誘客促進が期待される。

団体名	上諏訪温泉朝市の会（諏訪市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	諏訪観光協会（諏訪湖温泉旅館組合）	事業費	445,430円
電話	0266-52-7155	支援金額	319,000円